

釧路南ロータリークラブ会報

第25回 例会報告 2017.1.13 通算1661回

・点 鐘

長江理事（ロータリー情報委員長）

・ロータリーソング

「我等の生業」



ソングリーダー 川野 龍弥会員

・誕生祝

木内 治彦会員 S35.1.12 (57歳)



・会長挨拶

代行長江理事（ロータリー情報委員長）



・幹事報告



- * 第2500地区ガバナー事務所より、ロータリー財団100周年記念シンポジウムの広告、2016年12月24日の朝日新聞に、全紙カラーの広告記事が掲載されましたので、ご一読お願い致します。
- * フィリピン育英会バギオ基金より、バギオだより2017年1月号が届いております。
- * 厚岸RC様より、会報と1月の例会プログラムが届いております。

・委員会報告

親睦委員会

- ・本日のニコニコ献金

木内 治彦会員 誕生祝として



早津会員より報告

・本日のプログラム

「新入会員卓話」

担当 会員選考委員会

◆菊地 祐司会員



皆様こんにちは。去年 10 月に入会いたしましたハウスペイントキクチ、代表の菊地祐司です。僕の生い立ちから話そうかと思います。

昭和 52 年 5 月 22 日釧路市で 3 人兄弟の次男として生まれ育ちました。物心ついたころには母親しかおらず新聞配達をして生計を立てていたそうです。

なのでうちにはお風呂もテレビもない暮らしでした。その当時はうちは、ただの貧乏としか思っておらず親に反抗ばかりしていました。中学を卒業した時最初から高校の事は、頭になく仕事をしようと思っていましたが高校には行ったほうがいと母に言われましたが入れる所がなく定時制に行きましたが長くはもたず、この塗装業界に入ったわけです。当時まだ 15 歳でしたが、最初に入った会社が神奈川県にある会社で今でいうブラック企業でした。

釧路に戻ってきてすぐある塗装会社に入り塗装工事って奥が深いとおもいました、これは化学だと混ぜるものによって色々な変化がおきたりと、そのころは、北電の仕事が多かったので釧路中の発電所、水圧銃管(水の力で発電させるトンネル)阿寒湖畔の途中にみえますが、あとは変電所等の塗装が 7 割くらいでしたね。当時一番若手で通称あんちゃんと言業界ではいいです。要は雑用係でそのあんちゃんが段々成長していき仕事も出来るようになり、ある時

一緒に働いていたことのある友人からうちの会社にこないかい?といわれ他の会社も見てみたいと思いい 7 年いた会社を離れ、23 歳の時とある塗装会社に行くことになりました。当時驚いたのは塗装屋さんなのにサイディング張りもやっていて凄いい会社だなーと思ってるうちにタイルも貼るようになり、塗装部の方から 2 名外壁部の方から 1 名選ばれ社内ではタイル事業部と名付けていました。

その 2 名が僕と、今うちにいる従業員でした。そこで色々経験を積み 30 歳の時に独立しました。

塗装業は技術職なので、きっかけは、自分でやってみたい!俺ならやれる!という過剰な自信がなぜかあったんです。人に使われるじゃなく使う側になりたいっていうのもありましたし。

結果辞める前に自家用車を売ってトラックを買って通勤してたので社長にしたら面白くなかったんじゃないかなと思いますが今は、普通に前の会社とは仲良くお付き合いさせてもらっています。

当時は、何の計画性もなく失業保険の一時金 30 万くらいだったと思いますがそれのみで始めました。生活費だったんですが。まして冬だったので仮に仕事があったとしても雪で出来なかったと思います。手作りでチラシを作って子供がまだ、幼稚園だったのでうち奥さんやママ友達に手伝ってもらいポスティングなどした時もありました。結果初めての依頼がホームタンクって塗ってもらえますか?そのお客様が初のお客様となり徐々に仕事来るようになり色々な人と出会い相談にのってくれる社長達にも出会い、人には恵まれてるなーと、思います。先ほどもお話しましたが、塗装とサイディングとは繋がってて塗装するにあたって必ず凍害等でサイディングを交換する場面が出てくるのでうちも両方兼ね添えてやっています。塗り替え貼替えがメインですが、今は塗装 3 人、大工 1 人と僕の 5 人でや

っていて年齢では僕がちょうど真ん中ですね、みんなバリバリの職人なので口を返して来る事はたまにありますがそこを広い心で受け止め聞き入れながら更なる飛躍を目指したいと思います！

また、南クラブの一員、新人ロータリアンとして皆様のご指導ご鞭撻宜しくお願いいたします。以上で僕の話を終了したいと思います、ありがとうございました。

◆職業奉仕委員会より発表(代理 前田幹事)

ロータリーにおける『職業奉仕』という概念について、整理しましょう。

ロータリーの目的は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。

職業奉仕は、目的の第2項を土台としており、この項で、ロータリアンは次のことを奨励し、育むことが求められています。

1. 職業上の高い倫理基準
2. 役立つ仕事はすべて価値あるものという認識
3. 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

職業奉仕の実践方法としては、いくつかの方法があります

1. 例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う。
2. 地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす。
3. 高潔の精神で仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す。
4. 若者のキャリア目標を支援する。
5. 専門能力の開発を奨励し、指導する。

この中に出てくる『高潔性と論理』について説明し

ますと、

高潔性と倫理

高い倫理基準の実践を通じて高潔性を推進することは、ロータリアンとして不可欠の要素です。その中で生まれたのが、「四つのテスト」と「ロータリーの行動規範」の2つであり、職場や生活のあらゆる場面で倫理的行動を実践するための指針となっています。

四つのテスト

「四つのテスト」は、1932年、シカゴ・ロータリー・クラブ会員で、1954-55年度に国際ロータリー会長を務めたハーバート J. テイラーにより発案されました。倒産寸前の会社を建て直す役目を担ったテイラーは、仕事における全側面において従うべき倫理的指針として「四つのテスト」を創り、このシンプルな哲学のおかげで、この会社は倒産を免れました。その後、1934年に国際ロータリーで採用されて以来、「四つのテスト」はロータリアンが倫理的行動を測る上での重要な物差しとして用いられてきました。このテストは、多くの言語に翻訳され、世界中でロータリアンにより奨励されています。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

ロータリーの行動規範

「ロータリーの行動規範（以前の「ロータリアンの職業宣言）」は「四つのテスト」と並び、すべてのロータリアンが事業や専門職務において指針とできる、論理的行動の枠組みとなるものです。

ロータリーの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1. すべての行動と活動において、高潔性という中核的価値観の模範を示すこと。
2. 職業の経験と才能をロータリーでの奉仕に生かすこと。
3. 高い倫理基準を奨励し、助長しながら、個人的活動および事業と専門職における活動のすべてを倫理的に行うこと。
4. 他者との取引のすべてにおいて公正に努め、同じ人間としての尊重の念をもって接すること。
5. 社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を推進すること。
6. 若い人々に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めるために、自らの職業的才能を捧げること。
7. ロータリーおよびロータリアンから託される信頼を大切にし、ロータリーやロータリアンの評判を落としたり、不利になるようなことはしないこと。
8. 事業または専門職上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同輩ロータリアンに求めないこと。

ここまで職業奉仕の概念について簡単に説明してきましたが、ちょっと別の視点からお話しを。

この職業奉仕という概念は、ロータリーより遥か昔より、日本にもこの様な思想、道徳、心の在り方を説いていました。今でも現在までこの教えを実践してきた多くの老舗企業はたくさんあります。一つ紹介したいのは、江戸中期の思想家、石田梅岩ですが、多くの商人道徳を説いております。ロータリーの職業奉仕と通じる、というより全く同じ思想だと思います。

【学んで商人の道を知れば、食欲な心はなくなり、

仁の心で仕事を務めるようになり、道を外れることなく栄えるのである、これが商人の学問の徳である。】

三徳『正直・儉約・勤勉』という価値観を定説としています。これは世界共通の心の在り方であり、アメリカ建国者の一人、ベンジャミン・フランクリンの13の徳目にも『正直・儉約・勤勉』が含まれております。【お客さんを粗末にせず正直に勤めれば、八割方はお客さんの満足を得ることが出来る。そのうで商売に精を出せば、生活の心配などないのだ。】

【二重の利を取り、甘き毒を喰い、自死するようなこと多かるべし】【仕入れ時にはキズを大げさに言っって仕入れ値を下げ、販売時にはそれを黙って売る。このような道の外れた不正がたくさんある。だからこそ学問をして正すのだ。】

何点か紹介しましたが、石田梅岩は、当時から『両者（売手と買手の利）』を強調しております。そのためにも、学問が必要だとしています。学問とは、人間学、人間観であり、これが原理原則となっております。現在も変わっていないはずで、この原理原則を踏まえて行動することは、常に職業奉仕を行っていると言えるでしょう。そして、そこから高潔なる高い論理基準を持ったロータリアンの集団が形成されていく事と思います。



・次回のプログラム

1月20日（金）

「歴代会長卓話」

会場 ホテルクラウンヒルズ鉤路 12:30～

担当：ロータリー情報委員会

・点 鐘

長江理事（ロータリー情報委員長）

今週の会報担当：亀井麻也会員